本事例の基礎データ

<table>
<tr><td>カテゴリ</td><td colspan="4">ICT 及び先端技術を活用した指導方法</td></tr>
<tr><td>学校種</td><td>高等学校</td><td>事例提供者</td><td colspan="2">東京都立六本木高等学校</td></tr>
<tr><td>学年</td><td>―</td><td>教科等</td><td colspan="2">国語（国語総合）</td></tr>
<tr><td>単元名</td><td colspan="4">鶏口牛後</td></tr>
<tr><td>主な ICT 機器</td><td colspan="4">・タブレット PC（キーボード付き Windows 機／一人 1 台）
・電子黒板機能（プロジェクタ内蔵機能）</td></tr>
<tr><td>授業の概要</td><td colspan="4">生徒が、漢文「鶏口牛後」の内容を動物やアニメキャラ等に例える活動を通して、鶏口牛後で登場する国同士の力関係を理解し、故事成語の意味について理解を深める。</td></tr>
<tr><td>「情報活用能力＃東京モデル」の位置付け</td><td>情報活用</td><td>STEP5</td><td colspan="2">• クラウド等を用いて、情報を効率的に管理・活用できる
• 目的に応じて収集した資料を多角的に考察し、新たな意味を見いだせる
• 相手や目的に応じて、効果的に表現できる</td></tr>
</table>

本事例における教育の情報化について

【ポイント１】	**ICT 機器を利用するためのジェネリックスキルを活用** 本校の 1 年次の生徒は、学校設定科目「キャリアスタディ」の授業を通して、タイピング、ファイルの呼び出し・保存、オフィス系ソフトの操作方法などを学び、ICT の基本的操作を身に付けている。これにより、各科目で ICT を活用した学習指導を円滑に行うことができる。
【ポイント２】	**Microsoft Teams の活用** 生徒は履修している科目の「チーム」に所属し、授業の連絡や課題提出などに Microsoft Teams を活用している。また、アンケート機能を用いて、生徒の学習の振り返りを収集し、生徒へのフィードバックや教員の授業改善に活かしている。
【ポイント３】	**Microsoft 365 を発表活動で活用** 生徒はインターネット上の画像を活用して、故事成語の内容を分かりやすく説明する活動に取り組んだ。スライドの作成とタブレット PC を用いた発表活動を行い、仲間の多様な考えに触れ、故事成語の意味とその成り立ちについて理解を深めた。

本単元（題材）における指導の流れ

時間	●主な学習活動　　・生徒の活動	○支援・留意点　　☆評価
1	**●鶏口牛後の書き下し** ・本文の書き下し文をプリントに書き込みながら、その特徴や書き下し方を理解する。	○プロジェクターを活用し、プリント上の取り組む場所を明確にすることで、主体的に課題に取り組めるようにする。 ☆白文と書き下し文の違いを理解する。また、訓点を活用して、漢文を書き下し文に直すことができる。
2	**●鶏口牛後の現代語訳** ・教科書の脚注やプリントのヒントを参考にしながら、表計算ソフトの共同編集機能を活用して、協力して現代語訳を行う。	○表計算ソフトの共同編集機能を活用して、協力して現代語訳を行う活動を通して、鶏口牛後の話の全体像を理解させる。 ☆「鶏口牛後」の内容を要約することができる。また、訓点を活用して、漢文を書き下し文に直すことができる。
3	**●鶏口牛後の国名と人名の理解** ・ワークシートと色ペンを用いて、人名と国名に色分けし、話の全体像を理解する。	○ワークシートと色ペンを用いて、人名と国名を色分けする活動を通して、話の全体像を把握させる。 ☆史伝に関心をもって、中国史のつながりを理解しようとしている。また、「鶏口牛後」という言葉の意味と成り立ちを理解している。
4（本時）	**●鶏口牛後の意味を考える** ・ここまでの作品理解を踏まえた上で、「鶏口牛後」の登場人物一人一人を、動物やアニメキャラなどで例え、スライドにまとめる。 ・まとめた内容についてペアワークで共有する。	○生徒が、漢文「鶏口牛後」の内容を動物やアニメキャラ等に例える活動を通して、鶏口牛後で登場する国同士の力関係を理解させ、故事成語の意味を考えさせる。 ☆「鶏口牛後」の意味を主体的に考えようとしている。また、「鶏口牛後」の内容を要約することができる。

本時の流れ

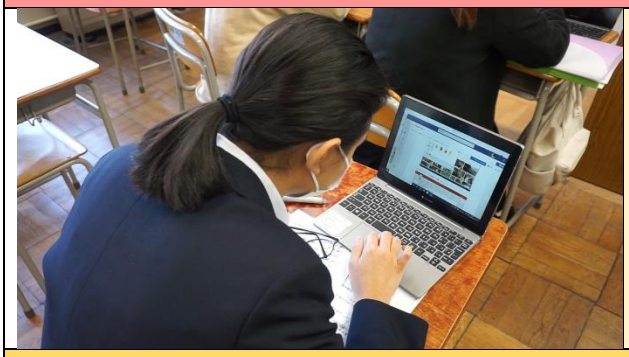
段階	●主な学習活動・児童の活動	○支援・留意点　　☆評価
導入	**●本時の学習目標を確認する。** ・学習目標を把握する。 ・学習活動の内容について説明を聞く。 ・Teams にアクセスし、配信された課題を確認する。	○生徒が学習に円滑に取り組めるように、具体的な作例を提示する。
	漢文「鶏口牛後」の内容を動物やアニメキャラ等に例えよう	
展開	**●鶏口牛後の登場人物を例える。** ・「鶏口牛後」の登場人物一人一人を、動物やアニメキャラなどで例え、スライドにまとめる。 ・なぜ、そのキャラクターを選んだのかを理由をスライドにまとめる。 **●鶏口牛後の各場面を再現する。** ・例えたキャラクターが、鶏口牛後の話に沿って、やり取りしている場面をスライドにまとめる。	○インターネット上の画像の保存方法やスライドへの挿入方法に関する手順書を Microsoft Teams で配布し、生徒が主体的に学習活動に取り組めるよう支援する。 ○鶏口牛後の内容に合う、適切なキャラクター配置になるように指導する。 ☆「鶏口牛後」の意味を主体的に考えようとしている。 【学びに向かう力・人間性等】
まとめ	**●完成したスライドを全体で共有する。** ・各グループが完成させたスライドを仲間と発表し合う。 **●鶏口牛後の意味を確認する。** ・学習活動を振り返り、「鶏口牛後」が何を意味しているのかを確認する。	○鶏口牛後の登場人物を発表者がどのように捉えて例えたのかを想像しながら、発表を聞くようにする。 ☆学習活動を振り返り、「鶏口牛後」の内容を要約することができる。 【知識・技能】

授業の実際

【ポイント１】 ICT 機器を利用するためのジェネリックスキルを活用

生徒は一人１台のタブレット PC を所持している。タイピングやファイル保存など ICT の基本的操作は学校設定科目やホームルーム等で身に付けており、各科目の授業で ICT 機器を円滑に活用できる。

【ポイント２】 Microsoft Teams の活用



一人一人が Microsoft のアカウントを所持している。生徒は履修している科目の「チーム」に所属し、授業の連絡や課題提出などに活用している。授業以外にも部活動や委員会活動等で活用している。

【ポイント３】 Microsoft 365 を発表活動で活用

PowerPoint で資料を作成し、タブレット PC で提示して発表活動を行った。簡単に資料を作成できるため、考える時間や話し合う時間を多く確保でき、より深い学びを実現させることが可能となる。

今後に向けて

- タブレット PC を忘れた生徒も一緒に取り組めるように、授業の準備や授業での取り組み方を考え、様々な状況に対応できるよう教員が準備する必要がある。
- スライド作成の課題に取り組んで終わりではなく、その後の自己評価や相互評価につなげていく必要がある。